

登山月報

JMSCA

登山月報 第673号 令和7年4月15日発行



「野洲川河口から冬の比良山系を望む」撮影：滋賀県山岳連盟 自然保護委員長 森田光治



No.673

スピードジャパンカップ2025 (SJC2025)	2
第5回スピードユース日本選手権多久大会 開催報告	
三井不動産 presents JMSCA クライミング体験キャンプin東京ミッドタウン ..	4
Jr. クライミング体験会in 甲府・小瀬	5
SKIMO 世界選手権 報告	6
寄贈図書	7
群馬県開催 令和6年度 氷雪技術研修会 コーチ2養成講習会報告 ..	8
令和6年度積雪期登山基礎講習会 報告	9
Enjoy Climbing	10
千葉県山岳・スポーツクライミング協会 自然保護委員会のSDGsな活動 ..	11
JMSCA、表紙のことば	11

スピードジャパンカップ2025 (SJC2025)
第5回スピードユース日本選手権多久大会
開催報告



昨年に引き続き「スピードジャパンカップ2025 (SJC2025)」及び「第5回スピードユース日本選手権多久大会 (SYC2025)」が佐賀県多久市の九州クライミングベースSAGAで開催された。九州とはいえ日本海側気候の影響を受ける多久市は冬は寒い日も多く、大会数日前には降雪もあったことからコンディションが心配されたが、大会当日は比較的穏やかな気候となった。

【開催概要】

スピードジャパンカップ2025 (SJC2025)

期 日 2025年2月16日(日)

参加選手数 男子25名、女子13名

※ SCJT2024 スピードランキング上位者

第5回スピードユース日本選手権多久大会 (SYC2025)

期 日 2025年2月15日(土)

参加選手数 U17男子9名、U17女子11名、

U19男子12名、U19女子6名

※優先参加資格保持選手及びその他

会 場 九州クライミングベースSAGA

来場者数 SYC2025 約190名、SJC2025 約260名

【概況】

今年はリードジャパンカップとの連続開催ではなく単体での開催となった。2大会の運営に配慮した会場レイアウトという縛りがなくなったため、コンパクトでありながら賑わいを創出できるレイアウトとした。



SJC2025_男子入賞者



SJC2025_女子入賞者

【競技】

■ SJC2025 競技結果

男子			
順位	氏名	所属	成績(決勝)
1	藤野 柊斗	東洋大学	5.18
2	大政 涼	松山大学	9.05
3	安川 潤	早稲田大学	5.37

女子			
順位	氏名	所属	成績(決勝)
1	林 かりん	鳥取県山岳・スポーツクライミング協会	7.29
2	小屋松 恋	横浜隼人高等学校	11.57
3	河上 史佳	鳥取県山岳・スポーツクライミング協会	7.78

■ SYC2025 競技結果

U19 男子			
順位	氏名	所属	成績(決勝)
1	田淵 幹規	上宮高等学校	5.28
2	大石 覇	千葉県山岳・スポーツクライミング協会	5.72
3	大西 月華	神奈川県山岳連盟	WC

U17 男子			
順位	氏名	所属	成績(決勝)
1	齋藤 蒼太	千葉県山岳・スポーツクライミング協会	5.85
2	柏 龍弥	三重県立久居農林高等学校	5.69
3	石田 観千	福岡県山岳・スポーツクライミング連盟	6.42

U19 女子			
順位	氏名	所属	成績(決勝)
1	小屋松 恋	横浜隼人高等学校	7.86
2	麦島 心花	中部大学春日丘高等学校	8.33
3	足立 莉帆	鳥取県山岳・スポーツクライミング協会	10.50

U17 女子			
順位	氏名	所属	成績(決勝)
1	西村 優杏	千葉県山岳・スポーツクライミング協会	8.88
2	望月 咲希	千葉県山岳・スポーツクライミング協会	9.10
3	岡部 朱里	千葉県山岳・スポーツクライミング協会	10.27

本大会に先立ち、国際競技規則の変更に基づくいくつかの競技規則改定がおこなわれ、新規則に基づいて競技が実施された。大きな変更点としてのひとつ目は、



SJC2025_男子競技



SJC2025_女子競技



SYC2025_U19男子



SYC2025_U17男子



SYC2025_U19女子



SYC2025_U17女子

不正スタートに関するもので、これまでの不正スタートを行うと、次のレースに参加できない、あるいは前のレースの記録が抹消されるということはなくなった。

ふたつ目はユース大会での年齢別カテゴリーの変更で、ジュニア、ユースA、ユースBの3グループから、U19、U17の2グループとなった。

SJC2025男子決勝はスモールファイナルで大会2連覇中の安川 潤と日本記録保持者の大政 涼が当たるという組み合わせとなった。両者好スタートを切るも、中盤に差し掛かるところで安川がスリップし、5.18のタイムで大政がビッグファイナル進出を決めた。決勝はその大政とプラクティスから好タイムを連発している藤野 柊斗との対戦となった。レースは終盤まで両者譲らない展開となったが、最後は大政がスリップし、5.18で初優勝を決めた。藤野はこの一年、上半身を中心としたフィジカルトレーニングをおこなってきた成果をこの大一番で発揮した。

SJC2025女子決勝は林 かりんがスモールファイナルで自己の持つ日本記録を上回る7.23を出し勝利。また、前日のSYCから好調をキープするU19の小屋松 恋も対戦した河上 史佳のタッチミスに救われ、初のビッグファ

イナル進出を決めた。ビッグファイナルでは林がスタートから飛び出し、日本記録にはわずかに及ばないものの2年ぶり2度目の優勝となった。

【総 評】

スピード種目の日本一を決める大会として、2月の屋外での開催は選手がベストパフォーマンスを出すには気温が低すぎるなど不安要素がありつつも、いくつかの日本記録も誕生し終わってみればハイレベルな大会となったが、開催時期やスピード競技施設の全国レベルでの拡充、スピード競技人口を増やす継続的な努力などは以前課題であり、これまで以上に尽力する必要があるとも感じました。

また、昨年に引き続き、多久高校はもちろんのこと、佐賀県、多久市などのご協力のもと、大会来場者を対象としたクライミング体験会や飲食店を中心とした地元店舗の出店が多数ありました。

大会が成功裡に、これらすべての選手を含め、関係者、競技会を支えてくださるすべての皆様のおかげです。心から感謝申し上げます。

(副実行委員長 藤枝隆介)

JMSCAがGraphic Design in Japan 2025にて入選

「SPORT CLIMBING JAPAN CUP 2024」の競技会ロゴデザインが、公益社団法人日本グラフィックデザイン協会（JAGDA）主催の「Graphic Design in Japan 2025」にて、「CI・シンボル・ロゴ・タイプフェイス部門」で入選いたしましたのでご報告します。



「三井不動産presents JMSCAクライミング体験キャンプin東京ミッドタウン」

こんにちは、巻末の4コマ漫画を描いている花福ござると申します。今回は3/15に東京ミッドタウンで行われたイベント『三井不動産presents JMSCAクライミング体験キャンプin東京ミッドタウン』をレポートさせていただきます。

このイベントはスポーツクライミングの普及、発展を目指して去年に引き続き東京ミッドタウンで開催されました。主催はJMSCA、三井不動産が特別協賛となっております。スポーツクライミングの未体験者から初心者を対象にした体験講習会で、ゲストになんとパリ五輪の男子ボルダー&リードの銀メダリスト安楽宙斗選手が直接指導してくれます。

参加できるのは小学3年生から6年生。第1部、第2部で安楽選手による体験講習、その後はフリー体験会となります。第1部と第2部それぞれ定員30名のところたくさんのお申し込みがあり2倍以上の競争率となりました。安楽選手は高校卒業後、大学に進学せずプロに転向するそうで、このイベントはプロクライマーとして初のイベントだそうです。安楽選手の登場に子供たちが嬉しそうにパチパチと拍手で迎えます。インタビューではプロ転向についての意気込みや、クライミングを楽しむコツなど子供たちに向けて優しく語ってくれました。安楽選手が銀メダルを披露すると子供たちは熱心に見入っていました。

会場には高さ3.6mの垂壁と2.6mで傾斜タイプの2つの仮設ウォールを設置。傾斜タイプの壁は100度から130度まで角度を変えられます。始めは100度スタート。垂直の壁に比べると結構前傾しています。ボルダー競技の壁の高さは3～5mなので2.6mの傾斜壁はやや低めです。一方3.6mの高さって見てる分にはそんなに高く感じませんが、地面から家の2階まで登るくらいの高さです。そう考えると結構高い！子供たちはそれぞれの壁に分かれて交代で登ります。クライミングの大会ではノリノリの音楽がかかっていることが多いですが、今回のイベントは音楽なしでのんびりほのぼのしたムードです。こういうのもいいですね。初めに安楽選手がデモンストレーションで登ってくれました。早い！あっという間！さすがメダリストです。重力がないみたいにひょいひょいと登ってしまいます。さてお次は子供たちの番です。安楽選手がスタートのポジションやルートなど直接アドバイス。手や足の使い方や体重移動のコツなど丁寧に教えてくれます。参加者の半数以上がクライミング初体験のわりにみんな身軽にひょいひょい登って



いきます。落ちててもあきらめずに何度もトライ。何度も何度も挑戦していきます。楽しいのがビシビシ伝わってきます。登れると嬉しいもんね。100度の壁は途中で110度に変更。難易度が上がって子供たちもより一層夢中でチャレンジしていました。1時間ほどの間に垂壁、前傾100度、110度の壁を体験。かなり何回もチャレンジできたのではないのでしょうか。

イベント終了時に安楽君がサイン入りの参加証明書を一人一人に手渡し、みんなで記念撮影。

この後のフリー体験会では子供たちと一緒に保護者も参加して楽しくクライミングにチャレンジ。ベテランクライマーさんたちが一人一人見てくれます。子供の方が身軽だからか、大人が結構苦戦しておりました。クライミングって見ていると簡単そうですがいざやってみるとそんなに簡単に登れないんですよ。プロクライマーさんって本当にすごいと思います。さてフリー体験会でも子供たち登る登る。「手が限界」とか言いながらも「もう一回！」とチャレンジしていました。あまりにも楽しそうでした。私もちょっとやってみたくなりました。

令和6年11月23日に山梨県甲府市小瀬スポーツ公園内にあるクライミング場においてJr.クライミング体験会in甲府・小瀬を開催した。この事業は、山梨県内の慈善団体である甲府東ロータリークラブが、ジュニア世代へのスポーツクライミング競技の普及促進と競技力強化を目的に山梨岳連に話があり、日本代表選手などの指導者を招聘したいとの希望からJMSCA主催として開催した。

対象は、小学校4年生～6年生の男女で初心者を中心にとした。会場の広さから20名定員としたところすぐに達したが、当日参加は体調不良等により17名となった。

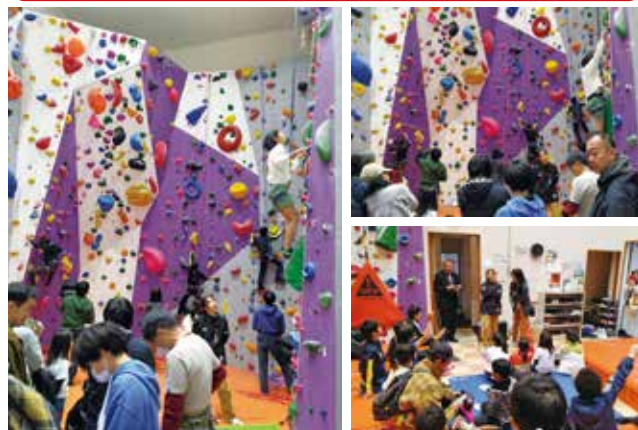
13:00から受付を開始し、まず各参加者に対しクライミングシューズとハーネス(安全ベルト)のサイズ合わせをして装着した。開始セレモニーにおいては、甲府東ロータリークラブ金井会長やJMSCA町田常務理事が挨拶を行った。

講師紹介後に安全に行うための説明がなされクライミング体験を開始した。特別講師は日本代表の中村真緒選手が務め、SC部副部長の栗田理事のほかJMSCAから1名、山梨岳連から4名が指導補助員として、ビレイや指導を行った。

トップロープで1人5ルート以上の体験をすることを目指して始まり、完登したときは喜び、途中で落ちたときは悔しがりながらもクライミングを楽しんだ。疲労が出てきたところで一旦休憩し、その間に中村選手が外にある大きな壁を登るパフォーマンスを披露し、華麗な登りに歓声があがった。そのまま、外壁前で全員で集合写真を撮影し、室内壁に戻ってから中村選手への質問コー



令和6年11月23日実施の「Jr.クライミング体験会」の様子



ナーを行い多くの質問が寄せられた。

子どもたちの疲労が回復したところで時間いっぱいまでクライミングを楽しみ、名残惜しみながら終了した。終わりのセレモニーでは、今後につなげてもらおうと県内のクライミングジム利用割引券を配布した。

参加者からは「前から本格的なクライミングをしてみたいと思っていたので体験できてよかった。一番上は高かったけど登れた時の達成感がすごく楽しかった。」という感想が寄せられ、コンパクトながらも充実した体験会となった。(山梨県山岳連盟 望月啓治)

4/1から
JMSCAで
クラウドファンディングを始めました。

「岩手山を望む、東北の文学登山ツアー
～味わう登山。山と自然と文学と。～」

詳細は→
こちらから



<http://jma-sangaku.or.jp/information/32174/>
[JMSCA 公式 HP]



<https://motion-gallery.net/projects/jmsca-01-iwatesan>
[MOTION GALLERY (クラウドファンディングプラットフォーム) HP]



SKIMO

世界選手権 報告

大会期間：2025年3月2日～8日

開催場所：スイス モルジャン

出場選手

男子シニア：島徳太郎・遠藤健太・小寺教夫

女子シニア：上田絢加・田中友里恵・滝澤空良・

白井夏海・青木聖美

男子 U20：滝澤 漣

スイスのMorginsは標高1350mにあるスキーリゾート。スイスはどこも高級リゾートとあって、日本チームは宿代が高かったこと、適当な良い宿が見つけれなかったこともあり、Morginsからは車で20分ほど降りた町、Monthey（モンテー）にアパートホテルをとり、そこから通いながら世界選手権を戦った。

移動の不便さはあったものの、標高の低いところで睡眠を取ることができ、岸トレーナも帯同頂き、リカバリーがよくできた中で戦うことができていたと思う。実際の試合については、島徳太郎は今までに戦ってきた中でトップ選手との差を7秒以内まで縮めることが出来てきた。これは今回の一番大きな収穫だったと言える。これにより日本チームに活気とここへの自信につながる気配を感じている。また、上田に関しても準々決勝まで進みトップ選手からは20秒差はあるものの、結果的に15位という成績を残すことができたことは今後への自信につながったと言える。

また、ジュニア世代として唯一男子U20に参加した滝澤は、初の海外レースで、バーティカルは28位、インディビデュアルは27位であった。

バーティカルは前半で集中を欠いてしまったが、後半まで脚が動いていた。ゴール直線の間違いがなければ順位は一つあげられただろう。逆に、インディヴィデュアルについては最後の滑走で足が攣り、なかなか動くことができないという経験をした。更なるトレーニングをして今後につなげてほしい。

ジュニア世代の海外遠征は、海外チームと比べると、SKIMOというスポーツ自体が小学生にも認知されていればよいのだが、まだ日本の認知度は浅いこともあり、うまく選手発掘もできていない状況であり、課題は大きい。

我々は、すでに取り組んでいる地域を中心に輪を広げる形で強化に取り組むことが必要と考える。

またミックスリレーでアジア大陸枠を獲得する上で



世界選手権集合写真

ライバルとなるはずの中国には、最初からポイントで差をつけられてしまっている。最終戦までにポイントを積むためにさらに取り組まなければならない。

今回の世界選手権では、特に中国チームのインディビデュアルレースの戦い方を見ていて、中国の強化について感じたことがあった。それはイタリア人コーチの元で約10年をかけ、



U20の滝澤漣

【リザルト】

■スプリント

- (女子) トップ選手 Fatton Marianne 3:20.96
上田絢加 15位 (3:40.80), 田中友里恵 38位 (3:51.90), 滝澤空良 51位 (3:59.50), 白井夏海 60位 (4:10.45)
- (男子) トップ選手 Cardona Coll Oriol 2:45.40
島徳太郎 23位 (2:52.11), 遠藤健太 72位 (3:26.88), 小寺教夫 80位 (3:50.52)

■バーティカル

- (女子) トップ選手 22:24.90
白井夏海 30位 (27:48.0), 滝澤空良 33位 (28:23.60), 青木聖美 44位 (30:49.20)
- (男子) トップ選手 18:50.3
小寺教夫 83位 (28:28.2)
- (U20男子) トップ選手 Briley Griffin 21:22.6
滝澤 漣 28位 (27:38.9)

- ミックスリレー (島&上田は39ポイントを獲得し国別ランキングで15位へ)
14位のスロベニアとは16点差。12位のカナダとは33点差。11位のアメリカとは36点差となっている。
1位 Anselmet Thibault & Harrop Emily (32:44.1)
島&上田 B決勝 15位 (39:13.4) 田中&遠藤 28位
小寺&滝澤 35位

■インディビデュアル

- (男子) トップ選手 Bonnet Remi 1:33.07
小寺教夫 65位 (2:20:16)
- (女子) トップ選手 Alexandersson Tove 1:34.01
青木聖美 42位 (2:23.20)
- (U20) トップ選手 Briley Griffin 1:32.21
滝澤 漣 27位 (2:04.43)



ミックスリレーでの島徳太郎



シニア女子バーティカルスタート前の様子



シニア男子インディビジュアルスタートの様子

しっかりと山岳で複雑な状況の中で対応できるようなトレーニングを積んでいる。そうでなければヨーロッパのインディビジュアルで勝つことは到底出来ない。

普通に考えれば、アルプスを背負ったヨーロッパ選

手が有利かと思うのだが、中国は、U18は男女共に優勝、U20も女子で優勝。U20男子は2位など、次世代選手が山岳を使った難しい滑りの状況下で、しっかり勝てる選手を育てていたことに対して、素直に拍手を送る他はないという成績を残した。日本の選手も出来る限り山岳で鍛えることがやはり必要だと感じた。

寄贈図書

(公社) 日本山岳会	「山」No.957 山岳祭 2025 年版、No.958 3月号	会報	株山と溪谷社	「山と溪谷」2025年4月号	情報誌
株日本運動具新聞	「スポーツ産業新報」No.2462、No.2463、No.2464	新聞	認定NPO法人富士山測候所を活用する会	第18回成果報告書講演予稿集	会報
(公財) 健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No. 563	会報	Corean Alpine Club	「한국산악」2024年 第44号	寄贈本
日本トレーニング指導者協会	「JATI」第105号	会報	日本山岳会山梨支部	甲斐山岳	会報
株山と溪谷社	ROCK & SNOW No.107	情報誌	東京野歩路会	「山嶺」VOL.102 No.1141号	会報
(公財) 埼玉県スポーツ協会	「スポーツ埼玉」創立100周年記念号 Vol.306	会報	おいらく山岳会	「山行手帖」784号	会報
Corean Alpine Club	「산(山)」2025年2月号 Vol. 289号	会報	新潟県山岳協会	「新山協ニュース」第377号	会報
溝手 康史	「登山道の法律 Q & A 登山道に関して生じる法律問題の解説」	寄贈本	大町山岳博物館	「山と博物館」2025春号 第70巻1号	会報
株昭文社	登山ガイドブック	寄贈本	大阪府立体育会館	季刊 No.152	会報

第61回全日本登山大会 兵庫大会のご案内

予告

毎日登山と近代登山の発祥地・六甲山

期日：令和7年10月25日(土)～27日(月)

会場：神戸市：瀬戸内海国立公園六甲山地（再度山・摩耶山・六甲山）



神戸ハーバーランドから見る六甲山地

主催 公益社団法人 日本山岳・スポーツクライミング協会
 主管 兵庫県山岳連盟
 後援 (予定)環境省・スポーツ庁・兵庫県・神戸市
 公益財団法人兵庫県スポーツ協会
 公益財団法人神戸市スポーツ協会
 一般財団法人神戸観光局

協力



神戸登山プロジェクト TREK KOBE

摩耶山再生の会（マヤカツ）

神戸愛山協会

神戸市民山の会

群馬県開催 令和6年度 氷雪技術研修会 コーチ2養成講習会報告

登山部指導委員会

令和7年3月15日(土)～16日(日)

群馬県谷川岳において研修会、コーチ2養成講習会が群馬県谷川岳土合山の家周辺にて開催された。

研修会3名、コーチ2養成講習5名、講師3名、群馬県スタッフ2名の計13名での開催となった。

谷川岳周辺はかなりの積雪があり宿舎のすぐ近くで実技講習ができました。

群馬県山岳・スポーツ連盟様においては吉田会長ならびに石井指導委員長に事前準備からお手伝いいただきまして誠にありがとうございました。

以下に参加者の代表の感想を掲載いたします。

(登山部指導委員会 野村)

受講生感想

茨城県山岳連盟 水戸葵山岳会 細谷 浩美

所属する山岳会でスタンディングアックスビレイの練習はしていましたが、やり方がまちまちで、「こう習った」とか「こっちの方がいい」とかどれが正しいのかわからなくなりました。また、滑落者を止めた後のロープの固定をしてもアイスアックスがないのに意味があるのかという疑問を持っていました。JMSCAの氷雪技術研修会があると知りいい機会だと参加しました。研修だからとやさしく教えてもらえるだろうと安易に臨みました。

初めに講師の堤先生のスタンディングアックスビレイのデモンストレーションがあり、なるほどなるほどと思っていたのはここまで、午後の実技では、「雪の踏み方がうまいよ」とほめられましたが、その後はもう大変。すっかり頭の中が真っ白。普段何気なくやっていたので、いざやってみなさいと言われても正確に何ひとつできない状態でした。あまりのひどさに堤先生からは、「スタンディングアックスビレイは明日にしましょう」と呆れられました。夕食のあと同部屋の研修に参加されていた方々と復習をしました。どこで間違っているのかどうすれば間違いなく結ぶことができるのかを親身に教えていただきました。

2日目は、雪降る中での実技でした。途中で雨になったので室内にもどってスタンディングアックスビレイを再度練習をしました。他の研修の方々はすいすいできるようになっていましたが、自分はしどろもどろ。「基本をもっと勉強しなさい!」と堤先生の言葉が心に刺さりました。「知っている」と「できる」はまったく違っていました。ひとつひとつを何度も丁寧に教えていただきとても勉強



になった2日間でした。ただ、滑落者を止めた後のロープの固定は、「指導者が、自己脱出を行うなかでロープワークなど基本がきちんとできているかの技術と知識を確認できるために行っている」という答えをいただきひとつ疑問が解決できたことは収穫でした。



埼玉県山岳・スポーツクライミング協会 船戸 亜紀

3月15日(土)～16日(日)、コーチ2養成講習会「氷雪(登攀)技術」に参加いたしました。受講地は谷川で、宿泊は土合山の家です。1日目は曇天、2日目は夜半降雪、朝からのみぞれが講習中に雨になり、講習実技終了時にはぐっしょりと濡れました。ですがこの悪天ではジバーク実習でツェルトのありがたさを実感することができました。

参加にあたっては全国からレベルの高い方々が集まるのだらうと思い大変緊張しましたが、今回コーチ2の受講者は5名と少なかったので、各人実技に取り組む回数を多く設けていただき緊張しつつもじっくりと取り組むことができました。ロープワークを受講の方々にも教えていただき、夜も朝も皆さんと一緒に復習・練習し、とても充実した時間を過ごしました。

自分では知っている・分かっていると思っていることも、声に出して順序立てて説明すること、そして初心者に分かりやすく理解できるように説明するという事はなかなか難しいことでした。講師の方々の説明は分かりやすく、また新たな気づきにもなり、指導方法・技術習得として大変勉強になりました。

今後も正しい知識・技術の習得、指導者として分かりやすい教え方の習得を目標としていきたいと思います。

令和6年度積雪期登山基礎講習会 報告

令和7年1月31日(金)～2月2日(日) 国立登山研修所

今年も定員をはるかに超える申し込みがありました。山岳部等を指導する教職員がここ数年減る一方、野外活動担当者や地域・職域での登山指導者に携わる方、及び救助組織に所属する方が大幅に増えました。その中には救助や初期対応などに携わる方も多く、警察消防関係16名、大学山岳部関係5名、一般2名の計23名で講習会は開催されました。

参加者から想像できると思いますが、体力的には申し分ない方々ですが、雪山は初めての方が多く、装備も借り物や初めて用意したものなど様々な方々が集まっての開催です。

基礎講習会では、登山などのテキストはあくまでも基本であり、経験豊かな講師陣の一言一言が教科書に載っていない重要な事です。聞き逃さない事と冒頭に話して始まりました。

前々日から40ㇰ+40ㇰの約80ㇰの降雪があり、立山カルデラ砂防博物館の飯田肇学芸課長から、この講習会の基本コンセプト“雪を知る”“雪山での危急時対策”の冬山の気象と積雪と雪崩を学び、コンプレッションテストなどの実技も学び自らも体験しました。

登山のプランニングでは各班講師から様々なアドバイスやチェックがあり、特に装備関係の事前チェックでは、講師と参加者との装備の違いを事細かく説明してありました。特に足回りは借り物や新品などが多く、アイゼン調整などの事前準備の重要性を分かってくれたものと思います。しかし、今回は劣化まではチェックできず、ワカンのバンドが切れたチームもあり、結束バンドにて対応して事なきを得ましたが、事前の準備に何が必要なのか？そして、どのように効率よく装備をまとめていくかも学んだことでしょう。

例えば、手袋が飛ばされ予備も無かったら、靴下でも代用できる。など臨機応変な対応がもとめられます。

冬山は、一つのミス・アクシデントでも重大で致命的なケースになる事があります。

いかに講師の経験から積まれたテキスト以外の教えが重要かを学んだ三日間でした。

以下は参加者からの感想です。

- ★おおまかな装備の使い方は知っていたが、効果的な使用方法を学べた、所属に還元したい(警察)
 - ★ヘリの隊員としてラッセル技術の必要性を痛感した(警察)
 - ★気象、地形、雪崩のリスクについて現場で学び、判断力が大事なのを痛感した(大学生)
 - ★初めてピッケルの使い方を学んだ(警察)
 - ★所属の装備はあるが、使用法はわからない現状が解決した(警察)
 - ★雪山を経験して道具選びの大切さを感じた(一般)
 - ★テント泊を経験しなければ細かい部分が身につかないので今後テント泊を含めた山行を増やしたい(一般)
 - ★濡れずに行動することの大変さを知ることが出来た(大学生)
 - ★プラティパスが破れザック内が濡れた、装備の点検で及ぼすリスクを学べた(警察)
 - ★講師やいろいろな方の経験談が勉強になった(大学生)
 - ★雪洞構築を経験して、高さなどの居住空間の必要性を実感した(大学生)
 - ★リスクマネジメントや事前のプランニングを感じた(消防)
 - ★学んだことを組織に伝えるのは難しいが今後教養を深め実践して行きたい(警察)
 - ★同じ場所でも斜面の方角や角度によって雪質、深さなどの違いを実感した(消防)
 - ★身近な危険を漠然と実施していた、時間がなくても大事なことをおろそかにしてはいけないことを感じた(大学生)
 - ★周囲を気に掛けるリーダーになりたい(大学生)
- 積雪基礎講習会の基本コンセプトである“雪を知る”“雪山での危急時対策”を十分に理解してくれたと思います。

そして、この経験を今後の活動に活かして、伝承していただきたいと思います。

(副主任講師 JMSCA指導委員会 本郷利夫)



Enjoy Climbing!

Enjoy Alpine Climbing!

— アルパインクライマーとしての成長 —

鈴木 雄大

この3年間は私にとって、アルパインクライマーとして大きな成長の年となった。

アルパインクライマーに必要な経験値、それは本当に多くのことが求められる。山や壁の中で難しいセクションをこなすためには、トラディショナルなフリークライミング、アイス、ミックスのスキルや、シビアナエイドの技術がもちろん必要だ。そして大体のヒマラヤやアンデスでの登攀において、本当の核心部となるのは、高所で永遠と続く3〜4級程度の青氷や、非現実的な形をしたスノーマッシュルームの稜線の迷路を解いていくこと。それに今晚のビバークポイントがどこになるのかといった不安と戦いながら、己を信じて登り続けるメンタル。テントの中でもやることは沢山あり、斜めのテラスで足と頭を浮き上がらせながら快眠するスキルも結構大事だ。もちろんチームワークも各人が登れるグレード以上に重要な要素だと僕は考えている。

山の麓では、例えばパキスタンの辺境の村で、ポーターやガイドと遠征を成功させるために関係性を築くコミュニケーション力や人間性、そもそもの遠征をオーガナイズするためのプランニング力、トラブルがあっても冷静に対処する図太い神経が必要になってくる。これらは僻地でのアルパインクライミングのビッグルートを成功させるためのほんの一部に過ぎず、僕のこれまでの経験を全て合わせてもまだまだ学ぶべきことが沢山ある。

少し前の話に遡ると、私は2013年頃から東京の早稲田大学のアルパインクラブで本格的な登山を始めた。日本で本格的な登山を始める一つの入り口が、大学山岳部であり、各大学のやる気ある学生たちが、時には他大学のやる気のあるクライマーと友人となり、ロープを組むことも珍しいことではない。2022年のハンター北壁、2023年と2024年のペルー・パキスタン遠征のパートナーも主にこのような繋がりから、チームを組むことになった。そもそも日本では海外遠征も視野に入れたアルパインクライマーが少なく、(大体25歳〜29歳で10人ちょっとだろうか)このような活動をしているクライマーは、とても小さなコミュニティの中で、ごく自然に噂に入ってくる。

学生の頃は、国内では、主に日本アルプスでの長期山行を行っていた。日本アルプスは標高3000m程度だが、海に近く、厳冬期にしっかりと晴れるのは週に1日程度。そして、意外にも人里離れたアプローチが多いので、悪天候で耐え忍びながらテントで生活する技術を磨くには良い場所である。シャモニーやアラスカのような、写真映えするルートは少ないが、悪天候で耐え忍びながらテントで生活し、タフなクライミングの経験を積むには世界有数だと断言できる。大学の山岳部では、日本の地理的、気候的要因もあってか、通常の冬山行計画は平均しても連続12日間程度は確保される。この経験は現在、アルパインクライミングの遠征

4分の1が宙に浮いたビバーク

で、せいぜい4〜5ビバークだけで登るのに随分と精神的障壁を下げていると感じている。

一方、僕は並行して海外にも登山へ出掛けていた。ドロミテやヨセ

ミテでのビッグウォール(The NoseとFree Rider「フリー」ではないが…)、パタゴニアでの爆風の中登頂したいいくつかの登攀、ネパール・アイランドピークの一般ルートや2017年に行ったラジョダダ(6426m)での初登頂など、少しずつではあるが、登山の経験値を蓄えていった。特にラジョダダでは、最近行っている遠征と比べると、登攀の難易度こそ劣るものの、アタック日の行動時間は26時間の非常に限界に近いサミットプッシュとなり、未知の対象への登り方と、情報のない冒険的な登山がいかに素晴らしいかを体に刻み込まれる強烈な体験となった。エベレスト街道と違って、登山者ともほとんど出くわさなかったのも良いスパイスとなっていた。

そして卒業後の23歳から27歳くらいまでは、日本の最北部である北海道に仕事の関係上移住し、そこでは主にスポーツ的なミックスクライミングの技術を高めていった。

僕は北海道を「Little Canmore」と呼んでいる。2〜3時間以下のドライブで、アプローチ15分程度の良質なミックスクライミングルートが多くあり、ボルトに守られた上で、ツールを使ったフリークライミングを練習しやすい環境だ。ここで、日本最難グレードであるM11+までのミックスクライミングに登り込んだ経験も、後の海外遠征でのミックスピッチに対して、精神的かつ肉体的に、大きなアドバンテージを感じている。

2022年晩春、私は世界的なアルパインクライミングのテストピースとも呼ばれる、ハンター北壁のムーンフラワーに挑戦した。これまで日本や世界各国で行ってきたアルパインクライミングの経験が、世界的な課題でどれだけ通用するかを確かめてみたかったし、遠く離れたアラスカへの憧れの気持ちもあった。結果としては、壁が終わる”Bibler Come Again Exit”まで何とか切り切る事ができた。核心の一つ、Shaftの氷が途切れていたり、Tamara's traverseの入り口のWI4の氷が無く、シビアナミックスクライミングのエイドとなったり、厳しいコンディションの中、なんとかトッパアウトできたことは大きな経験となった。今まで日本で登ってきたアルパインの経験は、間違いなく世界でも通用すると。しかし、今振り返ると、ムーンフラワーは全てのピッチがトボに記載されており、僕らが行った行為は確かに技術的には非常に難しかったかもしれないが、トボをなぞって登るだけのスポーツ的なものであり、「冒険心溢れる登攀」とは言い難い。それでも当時は、自分にとっての未知を克服していだけで充分野心的であった。

そして2022年の夏、僕は初めてのカラコルム遠征へと旅立った。



千葉県山岳・スポーツクライミング協会 自然保護委員会のSDGsな活動

千葉県の最高峰は、房総半島の南部に位置する愛宕山です。標高は408.2メートルと全国都道府県の最高峰の中で、最も標高の低い山ですが、「山高きが故に貴からず」という言葉のとおり、外見からでは想像できない美しく魅力の多い山です。



そんな美しい自然環境を守るために、千葉県では様々な取り組みを行っています。特に注目されるのが、房総半島南部に位置する房総丘陵の鋸山、愛宕山、清澄山を含む山域での登山道整備活動です。この地域は、泥岩と砂岩の互層からなる地質が特徴的で、マテバシイ、タブノキ、コナラなどの照葉樹林が広がる、緑豊かな自然景観を誇る場所です。しかし、2019年には三度の台風襲来により、房総半島の山々は甚大な被害を受けました。岩の上に堆積した薄い土壌に根を張った樹木は、暴風の勢いに耐えきれず根ごと岩から剥ぎ取られ、無数の倒木が登山道を塞ぎ、更に、斜面から崩れ落ちた土砂や岩石で甚大な被害が発生したのです。こうした箇所の復旧整備をしてきたのが、千葉県内の三つの登山団体（(一社)千葉県山岳・スポーツクライミング協会、千葉県勤労者山岳連盟、(公社)日本山岳会千葉支部）からなる房総の山復興プロジェクトと、この趣旨に賛同したボランティア団体、山域を所轄する自治体、それと地区の住民の方々等です。この作業は登山道を塞ぐ倒木をチェーンソーで切除し、手作業で土砂を撤去し、大きな岩石はハンマーで打ち砕くなど、郷土の山を愛する人々の汗と熱意により、5年以上もの長き時間をかけて少しずつ整備され、現在では県内17コース、総延長約

46キロメートルの登山道が整備され、登山者が安心して歩ける環境が整ってきました。しかし、活動を支える人々の高齢化が進み、後継者の育成が急務となっています。地球温暖化や自然災害の頻発により、再び登山道が荒廃する可能性も高く、持続可能な整備活動が求められています。

私たちに今求められているのは、山を愛する人々が力を結集し、山の荒廃を少しでも遅らせるとともに、自然を回復させるための努力を続けることです。千葉県で進められている自然保護活動は、美しい房総半島の自然環境を守るための重要な取り組みです。私たち一人ひとりが協力し、地域の自然環境の保全に貢献することで、未来の世代に豊かな自然を引き継ぐことが可能になるでしょう。今こそ、千葉県の山岳団体、地域自治体、住民が力を合わせ、持続可能な自然保護活動を推進することが未来への大きな一歩となるのです。



登山道に崩落した岩石の除去作業



チェーンソーでの倒木の切除作業

(千葉県山岳・スポーツクライミング協会
自然保護委員長 渡邊悦郎)



令和6年度第14回
理事会報告

- 日 時：令和7年3月13日(木)
13:00—16:20
- 場 所：JSOSビル3F会議室5及びZoom
- 出席者：蛭田会長、古賀・吉田各副会長、小野寺専務理事、赤尾事務局長、野村・町田各常務理事、小高・小田部・栗田・佐藤・島田・中島・中橋・西谷・畑中・前田・望月・安井各理事 以上19名

佐久間監事、古屋監事 以上2名
○欠 席：杉本・濱田・樋口・平田各理事
以上4名

1. 開 会

2. 蛭田会長からの挨拶

ジャパンカップは無事終了しました。今期は残りの事業を、予算内に収まるようにお願いします。

3. 会議成立状況報告

理事数 開始時23名中19名出席(定款第33条、定足数=12名(1/2超))

監事数 2名出席

4. 議長選出

蛭田会長が議長を務める。(定款第32条)

5. 議事録署名人

会長及び監事(定款第34条)

6. 議 題(注:審議順に記載)

議案第1号 議事録の承認について(前回第13回の議事録について)

全員承認済となった。

議案第2号 令和7年度取り組み及び予算の承認について

小野寺専務理事が配布資料(取り組み)の説明をし、内容の変更が必要であれば、事務局あて連絡をしてほしい旨伝えた。

蛭田会長が、来期予算については本日の決議が難しいので、3月24日もしくは25日PM

7:00-PM9:00まで理事の都合を確認した。

3月24日15名、25日9名が参加可能との意見から、臨時理事会を3月24日PM7時から行うことになった。

議案第3号 新役員選考について

蛭田会長が、提出の締切が3月10日まで延長され、28名の書類が提出されていることを伝えた。役員選考委員会が今後開催される予定。

議案第4号 「そうよそうなの遭難よ」について

小野寺専務理事が、当内容は、コロナの前にJMCAがオリジナルで作成したこと、神奈川県山岳連盟から見積もり(約180万円)が提示されていて、開始日は、JMCAから伝達し、使用開始日から1年間使用できることを補足した。

実施する場合には、効果的なアナウンス方法と、時期を検討してほしい、開始は、延ばせられるなら伸ばしてほしいという声もあり、登山部会で協議し、見解をだすことの賛否を取り、以下のように承認された。

反対0名、棄権0名、賛成19名

議案第5号 SC競技規則について

町田SC部長、畑中理事が、変更内容の説明をした。IFのルールに沿った人数、年代の変更が主な変更点で、協議が必要な内容の変更はないと補足説明があり、以下のように異議なく承認された。

反対0名、棄権0名、賛成19名

議案第6号 SC指導員規約改定について

野村常務理事が、配布資料を基に説明し、当規約の変更を提案した。

1. 従来、“常務理事会”で改廃可能としていたが、“理事会”に変更
2. コーチ3を受けられる条件を一時的に変更した(救済措置をとった)が、本来の内容の規約に変更

上記の変更について、異議なく承認された。

反対0名、棄権0名、賛成19名

議案第7号 資金繰りについて

赤尾事務局長が、3月初の時点のキャッシュフロー状況の説明をした後、3月末と、4月以降の資金状況の説明をした。3月末までに調達する資金について1. スキーモの強化資金増による銀行借入 2. 日山協共済会から借入 3. 篤志家から借入等の対応を予定したいと提案した。3月に上記借入れをすること、上記借入ができず、他の対応をとる必要が出た場合には、別途三役会議、常務理事会で対応することについて決議をとり、異議なく承認された。

反対0名、棄権0名、賛成19名

(その他意見)

—他の資金調達方法がないか、検討してほしい。

—今期は、収支が赤字にならないように対応してほしい。

—種々の事業資金は、一部概算払いで、資金の一部が、前倒しで入金されるが、事業が完了し事業費を全部支払った後に、精算払いで残りが入金されるという仕組みになっている。その間の運転資金が必要となり、上記のような資金不足となった。

—資金不足は一時的なもの、現時点では、今期決算が収支マイナスや、債務超過であるわけではないことを理事の方々は理解

しておいていただきたい。

議案第8号(追加) SC技術委員会ユニフォームの購入について

町田SC部長が、技術委員会公認審判員のユニフォームを購入する背景を説明し、今月中に発注が必要なこと、一着4000円で販売予定。完成は4月以降であること、補正予算として加えたいこと、ただし、前払いで3月中に入金(500,000円)が必要であること等の補足説明をした後に、採決を取り、以下のように、異議なく承認された。

反対0名、棄権0名、賛成19名

7. 報告

報告第1号 月次報告、キャッシュフロー(割愛)

報告第2号 スポンサー様との覚書について

町田SC部長が、配布資料を基に、当該スポンサーとの覚書について説明した。JMCAに対して要望したいこと(国内ユース大会に関わる活動、代表に関わる活動等)の中に、SNSへの投稿要求として、指定媒体と回数もあり、4半期毎の報告を求めている。当件については、承認議案として採決を取り、以下のように異議なく承認された。

反対0名、棄権0名、賛成19名

報告第3号 JOCコーチについて

安井理事が、当該コーチ設置事業の概要説明を行い、常務理事会で自身が、ハイパフォーマンステレクター(メダル獲得の責任者)として承認されたことを報告した。また、今後、SC部、登山部(3月18日予定)からの推薦を得て、他のコーチの申請予定(3月19日)であることも伝えた。

島田理事が中心になり、4半期ごとのコーチ実績報告をまとめている。コーチの人選について可視化がされ、規程等ができるとなお良いとの意見が出た。

報告第4号 オリエンテーリング協会からの外部理事招請について

小野寺専務理事が、標記についての依頼が来たことを説明した。6月からで良いのかどうか、JMCA理事にこだわるかどうか等を先方(村越氏)に確認し、登山部の野村部長に判断を委ねる事になった。

報告第5号 ルートセッター資格承認について

小野寺専務理事が、対象者リストを画面に表示し、常務理事会で承認されたことを報告した。

さらに、中橋理事が以下の補足説明をした。
—公認ルートセッター：高所作業を含み安全にセットができること

—C級ルートセッター：公認ルートセッター取得後になれるが、従来より、質が高い認定レベルになっていること

—A,B級ルートセッターは国内競技に限定されること

報告第6号 事務局JSOS内移転について

赤尾事務局長が、2月22日に807→905に予定通り移転したことを報告した。今後、場所が狭くなったので、ポスター配布や、ユニフォーム受取+発送、テキスト配布は外部倉庫で行う予定。登記簿上“JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE”以下の部屋番号は記入しないが、郵便物の宛先には、“JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 905”と部屋番号を記入するよう伝達した。

報告第7号 「山の知識検定」後援名義申請について

小野寺専務理事が、常務理事会で承認されたことを報告した。

報告第8号 登山・SC指導員認定承認について

小野寺専務理事が、常務理事会で承認されたことを報告した。

報告第9号 「京の子供ダイヤモンドプロジェクト」協力名義後援について

小野寺専務理事が、常務理事会で承認されたことを報告した。

報告第10号 事務局体制の現状について

赤尾事務局長が、現状の事務局人員と、各職員が、何の業務を行っているかを個々に説明した。

報告第11号 UAAA総会(モンゴル)(6・19-22)について

小野寺専務理事から上記日程で行う予定であることを説明した。

(神崎顧問、田中名誉会長が参加予定)

報告第12号 九州SCカップについて(旧にしけいカップ)

小野寺専務理事が、常務理事会で公認の承認がされたことを報告した。

報告第13号 リード日本代表選手選考について

安井理事が、リストを基に対象者の説明をしたのち、小野寺専務理事が、常務理事会で承認されたことを報告した。

8. その他

1. 日本パラクライミング協会との関係について

一度JMCAに協力の依頼があったが、日本パラクライミング協会内で再検討することになった。その後、日本パラクライミング協会代表より、20以上加盟団体がないと上部団体へ参加できないという連絡を受け、あらためてJMCAを通しての関係の再検討を依頼された。いつまでに、何をしてほしいのかを明確にしたうえで、理事会に諮りたい。

(名義貸しとのことだが、詳細希望を明確にしたうえで協議する。)

2. 月報配布方法変更案について(追加)

前田理事が、画面から、“賛助会員向け案内”(基本配布停止)文面(案)と、“登山月報購読者向け案内”(有償)の文面(案)を表示し、内容について、賛否を取り異議なく承認された。また、有料で配布を希望する個人向けの有償費用は、別途事務局と協議、決定することについても異議なく承認された。

3. 国スポブロック大会での得点の決定方法、選出について

ボルダーは得点による。リードは今まで通り。新規定を見たうえで、質問等があったら、別途確認していただく。当変更は、4月に正式に公開される予定。

4. メディアブリーフィングについて

現在、小野寺専務理事、安井理事で対応しているが、各社スキーモ対応担当者が任命され、スキーモ関係の質問が多くなるので、今後、小田部理事に参加してもらうことになった。

以上

令和7年3月13日

記録 赤尾浩一

○日 時：令和7年3月24日(月)
19:00—21:00
○場 所：JSOSビル3F会議室7及びZoom
○出席者：蛭田会長、古賀・吉田各副会長、小野寺専務理事、赤尾事務局長、野村・町田各常務理事、小高・小田部・佐藤・島田・中島・中橋・畑中・濱田・平田・前田・望月・安井各理事 以上19名
佐久間監事、古屋監事 以上2名
○欠 席：栗田・杉本・西谷・樋口各理事 以上4名

1. 開 会

2. 蛭田会長からの挨拶

今回は、予算の審議と決議になります。取り纏めたいと思いますので、よろしくお願いします。

3. 会議成立状況報告

理事数 開始時23名中19名出席(定款第33条、定足数=12名(1/2超))
監事数 2名出席

4. 議長選出

蛭田会長が議長を務める。(定款第32条)

5. 議事録署名人

会長及び監事(定款第34条)

6. 議 題(注.審議順に記載)

議案第1号 令和7年度の取組み及び予算の承認について

1. 令和7年度の取組みと事業内容について
小野寺専務理事が画面から情報を共有し、前回と変わった部分の説明をした。

2. 予算の承認について

濱田財務委員長が、配布資料により、各部から提出された委員会毎数値を表示し、以下の補足説明をした。

- ①一部費用計上されていない部分がある。
- ②基金返金資金の確保までできていない。
- また、事務局費用の中に、各委員会で負担すべき項目が含まれている。現状の委員会業務サポート作業の内、事務局で継続した方がよいか、委員会で行った方がよいかを検討したほうがよいものもある。

さらに、提案された委員会ごとの予算数値の内、登山普及委員会、国スポ委員会、公益共通の数値修正が必要なことが補足された。その後さまざまな意見が出され、以下の検討をすることの提案がされた。

- ①全体費用の内、雑費から1110万円を削れないかを検討する。
- ②費用計上されていない一部大会の持出し分をもれなく計上する。
- ③カテゴリー変更が発生したので、2つのフューチャーカップについて、大会の構成の変更を加える等の工夫ができないかを検討する。

上記の点の実現性を検討、確認したうえで、次回臨時理事会を3月26日(水)PM7:00から行うことになった。なお、予算数値変更後に、最終内閣府提出日(3月31日)に間に合いそうもない場合には、3役会議で対応をすることを前提に、採決し、異議なく承認

された。

反対0名、棄権0名、賛成19名

また、内閣府から、3月末日までに提出することを要求されている令和7年度事業計画と予算提出について、延長が可能かどうか確認することになった。

以上
令和7年3月24日 記録 赤尾浩一

○日 時：令和7年3月26日(木)
19:00—21:50
○場 所：Zoomによる会議
○出席者：蛭田会長、古賀・吉田各副会長、小野寺専務理事、赤尾事務局長、野村(19:30 から参加)・町田常務理事、小高・小田部・栗田・佐藤・島田・中島・中橋(19:50から離席)・西谷・畑中・樋口(21:00から参加)・望月・安井各理事 以上19名
古屋監事 以上1名
○欠 席：杉本・平田・西谷・前田各理事 以上4名、佐久間監事 以上1名

1. 開 会

2. 蛭田会長からの挨拶

予算については、厳しい状況ですが、皆さんの賛同を得られるようにまとめたいと思います。ご協力をお願いします。

3. 会議成立状況報告

理事数 開始時23名中17名出席(定款第33条、定足数=12名(1/2超))
監事数 1名出席

4. 議長選出

蛭田会長が議長を務める。(定款第32条)

5. 議事録署名人

会長及び監事(定款第34条)

6. 議 題(注.審議順に記載)

議案第1号 令和7年度取組み及び予算の承認について

前回の3月24日の臨時理事会に出された令和7年度予算案の内、経費削減案(雑費、大会の削減等)について、町田SC部長が関係者から聞いた実現可能性や、影響について状況の説明をした。その後、業務委託に関わる現状や、資金状況とその確保案、SC競技の科目ごとの実態(スタッフ謝金、大会設置費用等)の情報開示の必要性の意見がでた。SC競技の費用実態を理事内で共有するために、BJC/LJCの2023年、2024年の収支実績、2025年の想定予算を提示し、理事に展開することになった。提出方法、時期等については持ち帰って確認することになった(町田SC部長)。3月24日に行われた臨時理事会で、小野寺専務理事が令和7年度取組み及び事業内容を説明したが、その後、変更依頼は来ていないので、その内容でいかどうか採決をとり、以下のように異議なく承認された。

反対0名、棄権0名、賛成17名

令和7年度予算案については、3月24日提示された予算原案の総額数値で提出することについて採決を取り、以下のように承認された。

反対0名、棄権1名(濱田理事)、賛成16人
一方で、SC部内で次の2案の費用削減案が出ている。

- a. ユースボルダーの大会にフューチャーのカテゴリーを組み込む
- b. 地方岳連主管の大会でフューチャーリードを行う等

上記のさらなる検討を進めることについて、賛否を取り、異議なく承認された。

反対0名、棄権0名、賛成17名

SC強化の派遣大会(シャモニー、インスブルック)ごと、2023年、2024年収支実績、科目詳細の情報を、既存情報で理事に提供することになった。ただし、当情報は機密情報であるので、取り扱い要注意であることを補足した(赤尾事務局長)。

議案第2号(追加)業務委託契約の更新について

業務委託契約の2名から提出された業務報告について赤尾事務局長が、両名から報告された業務報告(3月24日に配布済)を画面で紹介した。その後以下の補足説明や、意見が出された。

*ガバナンス委員会からは、“業務報告”をベースに、理事会で更新の可否判断をしてほしいということだった。

*大会の結果報告を作成、理事会に展開、説明することを報告項目とし追加してほしい。

*委託業務契約で、委託する仕事の内容、評価、それに対する指示命令等は、主管理事、担当理事が実施、管理する。

*契約、更新期間、金額等の契約内容のコミーシャル部分は、会長、専務理事が担当、交渉する。協議は、3月中にできるだけ早く申し入れする。今後、2名とも契約更新を前提に、上記を行うことについて、採決を取り、異議なく承認された。

反対0名、棄権0名、賛成18名

その他

1. 古屋監事が、現状の運営状況(今期の決算と同様な内容の来期の予算策定、及び期末決済資金の支払条件・方法)では、来期末(令和8年3月末)に、運営資金について懸念が残る。それを回避する具体策を策定するために工程表を作成し、計画的に議論し、実行する必要があるとの発言があった。

その結果、具体的には、先ず3役で、現契約内容、SC大会費用の削減、組織のあり方を含めた課題について、協議、策定することになった。

2. 捺印済み理事会議事録を遅くとも3月31日(月)に入手し、内閣府へ提出しなければならないので、理事会議事録の早期完成に、理事の皆さんのご協力をお願いしたい。

以上
令和7年3月26日 記録 赤尾浩一

かすみちゃんのハイキング日記



表紙のこぼ



「野洲川河口から冬の比良山系を望む」

冬型気圧配置の気候の早朝、守山市の野洲川河口から琵琶湖を隔てた西岸に屏風のように連なる雪の比良山系の眺めが圧巻であった。野洲川は鈴鹿山脈の御在所岳を水源とする、琵琶湖に流入する最大の流域面積をもつ川である。琵琶湖東岸からは、湖北の野坂山地から比良山系を経て、仏教の聖地である比叡山といった1000m級の山々を一望することができる。比良山系の稜線から眺める琵琶湖の景色もこれまた絶景で、四季折々の魅力を堪能することができる。京阪神からのアクセスもよく、年間を通して登山やスキーなどで客足が絶えない。最高峰は武奈ヶ岳(1214m)で、晴れた日には琵琶湖のはるか向こうに、鈴鹿山脈、白山、御嶽山などを望むことができる。近年注目されている「比良比叡トレイル」も整備されているので、ぜひ一度足を運んでほしい。

滋賀県山岳連盟 自然保護委員長 森田光治

編集後記

登山月報をご愛読いただき、ありがとうございます。

このたびJMSCAでは、諸般の事情により『登山月報』の個人宛配送を原則として停止する事となりました。登山月報はJMSCAのホームページよりPDFファイルでダウンロードしてご覧いただけます。過去の『登山月報』もアーカイブとして提供しておりますので、ぜひご活用ください。

なお、郵送での受け取りをご希望の方には、有料にてサービスを提供いたします。詳細・お申し込み方法については、JMSCAのホームページをご確認ください。

ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

(松本光顕)

登山月報 第673号

定価	110円(送料別)
予約年間	3,000円(送料共) (毎月1回15日発行)
発行日	令和7年4月15日
発行者	東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号 Japan Sport Olympic Square 905 公益社団法人 日本山岳・スポーツクライミング協会
電話	03-5843-1631
FAX	03-5843-1635

山岳
雑誌

岳人

がくじん
山と人、時代をつなぐ「岳人」

5月号
販売中

【特集】モンベル50周年

モンベルのウェブサイト
全国のモンベルストアや書店にて販売中!

毎月15日発売 価格1,100円(税込)



▶年間購読が断然おトクです!

年間購読
通常特典

購読割引

送料無料

限定品プレゼント

さらに

モンベル
クラブ
会員さまには

モンベルポイント
5,000P プレゼント!

モンベルクラブ会員さまで現在購読中の方は、
次回継続時に5,000Pをプレゼントします。

年間購読特典

岳人オリジナル手ぬぐい



岳人の表紙絵を描く
中村みつを氏のイラストを使用!

岳人
カード

全国2,000ヵ所以上で
ご優待!



全国の温泉や山小屋など提携施設で
さまざまなご優待が受けられるカードです。

年間購読のお申し込みはこちらから! >>>

<https://www.gakujin.jp/>



全国の
モンベルストア
でも受付中!

お問い合わせ
モンベルポスト



0120-982-682 / TEL 06-6538-5797

※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

SDGsで、未来をつなぐ

三井住友海上は、安心と安全の提供を通じて、持続可能な社会の実現に取り組めます



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs (Sustainable Development Goals) とは

2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた包括的で持続可能な社会の構築を目指す「持続可能な開発目標」のことです。

持続可能な地球環境		安心して暮らせる社会		活力のある経済活動	
関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組
 	- 再生可能エネルギーの普及支援 - 自然災害リスクモデルにもとづくコンサルティング	 	- 健康づくりの支援 - 先進技術を活用した利便性の高いお客さま対応	 	- 次世代モビリティ社会への対応（自動運転車等） - 災害に強いまちづくりの支援

立ちどまらない保険。

MS&AD

三井住友海上

三井住友海上は、レジリエントでサステナブルな社会※をめざします。

※外部環境にしなやかに対応する、持続可能な社会



日山協山岳共済会のご案内

**安全登山は登山者の努め、
山岳保険は義務。**

ご自身のために、ご家族のために。

日山協山岳共済会とは、

日山協山岳共済会とは公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会(JMSCA)とアライアンスを組み、安全登山の指導・普及を図り、山や自然が好きな人たちのための互助と自立を目指す仲間の集まりです。山岳共済会は、日本の山岳遭難・捜索保険の草分けで、5万人の会員を持つ最大級の山岳共済です。年齢・既往症に関係なくどなたでも入会できます。

2023年 山岳遭難の概況

警察庁生活安全局生活安全企画課
(2024年6月13日)

発生件数	3,126 件 (前年対比 111件増)
遭難者数	3,568 人 (前年対比 62人増)
死者・行方不明者	335 人 (前年対比 8人増)



2025年版

日山協山岳共済会のしおり

WEBからもお申込みいただけます (www.sangakukyousai.jp)

